



認知症

がわからない

認知症の高齢者が加害者となる交通事故が相次いでいる。「自分の老親も、もしかして……」と心配している人は、学会誌などで発表され、専門医からも注目を集めている認知症チェック法「TOPIQ」を試してはどうか。考案した「くどうちあき脳神経外科クリニック」(東京・大田区)の工藤千秋院長に詳しく聞いた。

オリンピックキツネハト



2〜3分あればOK
「検査を受けている人も楽しんでだね」などと「オリンピックキツネハト」の時の回答の正誤をチェックする。

まず、「東京はいつ?」の3つの質問を会話に織り交ぜる。その時の回答の正誤をチェックする。次に、「前へならえ」のポーズのように両手を肩の高さに水平に上げ、両手のひらを内外に交互に向ける「キラキラ体操」をやってみよう。この時「何歳?」「51歳の時は何歳?」「5年後の東京オリンピックの時は何歳?」「1年後の東京オリンピックの時は何歳?」「誕生日院長は一体の柔軟性を見

せてもらおうかな」と切り出すことが多いという。そして、両手で「キラキラ体操」と「ハト」(写真)をつくらせてもらうのがポイントだ。「認知症の疑いがあるかどうかは、オリンピックの話で出した年齢と誕生日、両手でつくってもらったキラキラ体操の出方とハトのいづれか1つ失敗なら「X」、両方とも失敗なら「XX」(2点)を加算する。0点が正常。点数が高いほど認知症が進行している可能性がある。さらに「TOPIQ」では、3つの行動の観察でより突っ込んだことまでわかる。観察するのは「年齢や誕生日を聞いた診受診者の50歳以上の2105人にTOPIQをい



「振り向き徴候は、アルツハイマー型認知症によくある、取り纏いの症状」です。ハンド・バレる状態が「中度相当」になる。病院拒否の親にと、反応が鈍くな

「微候は、下がる方の腕と反対側の脳の血管に脳梗塞などが起こっている可能性がある。つまり、「正しい検査は認知症専門医でないと難しいです。回内・回外運動からいけば、親御さんもバレーボールやテニスと呼ばれる症状があるかどうかを調べるでしょう。TOPIQは自然にできるのがいい。大いに活用し、結果